

# 制度論アプローチによる東アジア地域環境制度の形成と地域統合

## Environmental Institutions and Regional Integration in East Asian

○松岡 俊二  
Shunji Matsuoka

### 1. はじめに

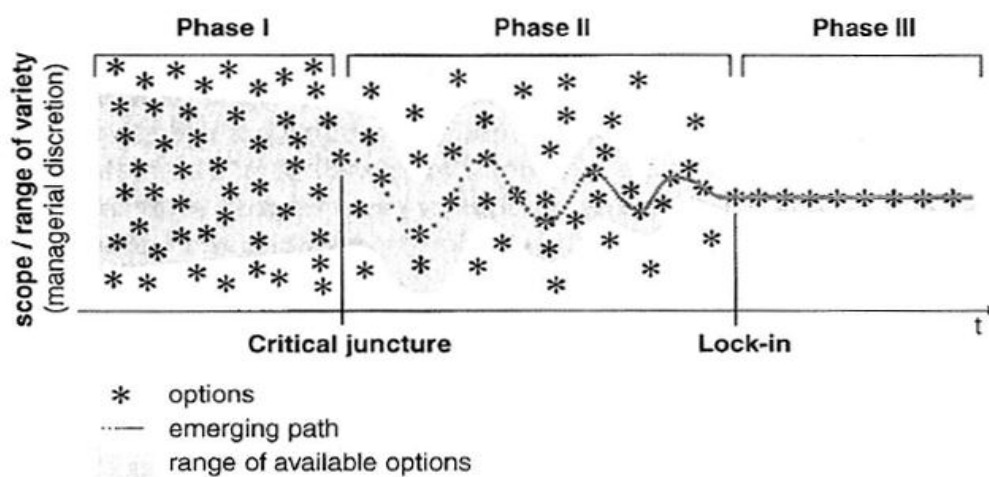
本報告は制度論の視点から東アジアにおける地域環境制度の形成と発展のメカニズムを論じる。同時に、こうした環境制度の変化・発展は、経済協力や社会協力などの他分野の協力制度の形成・発展、さらには地域統合制度の動きと密接に関連しており、こうした東アジア地域統合制度との関係性も考察する。

ところで制度論アプローチには、新制度学派、歴史制度主義、社会制度論といわれる 3 つのものがあるが (Hall and Taylor 1996)、本報告では制度の形成や変化・発展に焦点を当てて、主として歴史制度主義に立脚する。

本報告は、東アジアの環境協力・環境ガバナンスを主な事例として地域制度の形成・発展メカニズムを考察するため、まず、(1)既往の制度論研究の批判的な検討から、地域制度形成の理論と分析方法を具体化する。次に、(2)こうした制度の理論と方法をどのように環境協力や地域制度の形成と発展過程の分析に適用・応用するのかを考える。最後に、(3)今後の東アジアにおける地域環境ガバナンスの形成と地域統合との動的な関係を考察する。

### 2. 制度形成の理論と制度変化の分析方法

図 1 制度形成と経路依存性



(出所) Schreyogg and Sydow (2010), p.8 より引用。

歴史制度論に基づく制度形成のメカニズムの概念図を図1に示した。Phase1の準備期間からCritical Juncture（重大な岐路）を経て制度は形成され、その後は経路依存性に基づき発展（Phase2）あるいはロックインにより固定化する（Phase3）。

こうした制度の変化メカニズムとして、歴史制度論では、重要な要素はアクター間のバランス・オブ・パワーと考える。特に、様々な制度間の相互作用により、ある一つの制度の資源配分メカニズムと他の制度の資源配分メカニズムの間にコンフリクトが生じる場合は、アクター間の力関係の変化が生じ、こうしたアクター間の能力の変化や格差が制度変化を促すと考えられる。制度変化の類型としてMahoney and Thelen (2010)は、以下の4つのパターンを類型化している。

- 1) Displacement: 古い制度を撤廃し、新しい制度を導入する。
- 2) Layering: 古い制度の上に重ねて新しい制度を導入する。
- 3) Drift: 環境の変化に応じて既存の制度のインパクトや効果が変化する。
- 4) Conversion: 既存の制度の戦略的再定義によりに新しい役割を与える。

### 3. 東アジアの環境制度の変化・発展

制度論という視角からみたとき、様々な東アジア環境制度が何らかの基軸制度を持ち、補完しあう関係にあり、全体として東アジアの地域環境に関わる「制度の束（bundle of institutions）」あるいはbuilding blockとして機能しているのか、それともお互いに競合・相殺する関係にあるのかが重要である。現状はどちらも評価が難しく、むしろ地域統合のあり方をめぐり様々な試行錯誤が行われている段階と理解するのが妥当かもしれない。

しかし、現在の東アジア地域環境協力制度には、EANET、NEASPEC、NOWPAPといった環境問題のために設立された制度と、TEMM（日中韓サミット）、ASEAN+3環境大臣会合、東アジア・サミット（EAS）環境大臣会合といった首脳会合（政治サミット）の環境分野としての制度が並存している。今後の東アジアの地域環境協力制度の変化・発展は、ある意味で「環境専門制度」と地域統合・地域共同体を志向する政治制度の「部分・補完制度としての環境制度」の両輪によって展開していくものと考えられる。

その際、東アジア地域全体をカバーする共同体形成として2005年から開始された東アジア・サミット（ASEAN+3+3）が、2011年からアメリカ、ロシアが加わり、ASEAN+6+2という空間構造になるといった状況を考えると、1989年に始まったAPECの動向も含め、この地域における地域主義(regionalism)と地域化(regionalization)そのものが、グローバル化(or globalism)の中で変化し続けているものと考えられる。こうした地域概念の可変性、可塑性、柔軟性はそれ自身が東アジアの大きな地域特徴であり、Pierson (2004)の主張する「制度収斂論」（グローバル化とネットワークの発展による規範の「伝播」により、制度的収斂＝「制度の標準化」が起こる）がアジアで妥当するのかどうかは慎重な吟味が必要であろう。